

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

またお世話になります。
「天野祐吉作業室」です。

★第1弾は、「島森路子インタビュー集」全2冊

文・天野 祐吉

「広告批評」では、お世話になりました。30年の歴史に無事に幕を下ろすことができ、「さあ、これからは隠居だ!」と勇んでいたのですが、悪友たちになんだかんだとそそのかされて、またぞろ小さな出版社をつくってしまいました。社名は「天野祐吉作業室」。どうぞまたよろしく。

というわけで、まず第1弾は、「島森路子インタビュー集」全2冊を、7月早々に刊行します。島森は「広告批評」の2代目編集長として、また名インタビュアーとしてよく知られていますが、30年の間に優に200人をこえる著名人にインタビューをしてきました。

まさに「ことばの饗宴」

その中から、とくに貴重な24編を選んで2冊にまとめたのですが、どれもたいへん面白い。

上巻「ことばを尋ねて」—淀川長治、山田風太郎、吉田秀和、養老孟司、美輪明宏、谷川俊太郎、糸井重里、橋本治、タモリ、ビートたけし、所ジョージ、イッセー尾形、亀倉雄策。

下巻「ことばに会う」—村上春樹、鶴見俊輔、池澤夏樹、是枝裕和、深澤直人、佐藤雅彦、浦沢直樹、とんねるず、爆笑問題、ラーメンズ、横尾忠則。

—という豪華な顔ぶれが、いい話を次々に展開しています。まさに「ことばの饗宴」といった内容です。

零細出版社なのでマスコミに派手な広告はできませんが、いま、インター



ネットを通じての話題づくりに取り組んでいます。すでに、天野のブログから発信した「モニター募集」で、たくさんの方が応募してくれました。この人たちを発信源にして、大いに話題を広げていくつもりです。

第2弾は佐藤可士和と天野の対談集

第2弾は、話題のデザイナー・佐藤可士和と天野祐吉の対談集「疾走するデザイン」です。刊行は9月中旬。天野祐吉が、ベストセラー「佐藤可士和の超整理術」(日経新聞出版)の著者を相手に、広告のあれこれを気さくに語り合う楽しい一冊。広告関係者だけでなく、可士和ファン期待の一冊でもあります。

さらに11月中には、広告界待望の「大貫卓也全仕事2010」を刊行する予定で、すでに準備を始めています。

大貫卓也といえば、「としまえん」や「日清カップヌードル」のヒットCMであまりにも有名なクリエイティブ・ディレクターですが、その彼の代表作

を全1冊にまとめて出版しようというものです。

実は、1992年にも、「広告批評」の別冊として「大貫卓也全仕事」を刊行したことがあります。で、そのときは重版に次ぐ重版で、たいへん大きな反響を頂きました。が、それからもう20年、続編の刊行があちこちから待たれ

ていたのですが、やっとそれが可能になったというわけです。

そのほかにも、谷内六郎さんの未刊の原稿など、本にしたいものがいくつかあります。そうした本を、ゆっくり手をかけて、本好きの人たちに送り届けていきたい。電子ブックなどの出現で、本の世界もいま大きく変わりつつありますが、「やっぱり本はいいなあ」と本好きの人たちに思ってもらえるような本を、こつこつ出していきたいと思っています。

電子ブックにも、もちろんいいところはあります。でも、電子ブックの欠点は、ページをめくる紙の音がしないところですよ。

(あまの ゆうきち/天野祐吉作業室代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『はじめての秋田弁』 ●こばやし たけし著



自殺率、がん死亡率とも全国一位という暗いイメージの秋田県。一方では「なまはげ」「きりたんぼ」などが即座に浮かび、知名度が高い県でもある。そんな秋田のことが四コママンガで気軽にわかってしまうのが本書。横浜からの転校生、神宮寺みなせがクラスメイトや先生に鋭いツッコミを入れられつつ、徐々に秋田弁に慣れていく姿が微笑ましい。(登場人物はほとんどが萌え系の女

子!)。たとえば秋田弁では「食べる」「来い」「かゆい」が全て「け」の一文字で済んでしまう。まさに言葉のエコ。習慣や名物はもちろん、ゆるキャラ日本一に輝いた「スギッチ」も登場し、秋田県人でも他県人でも楽しめる。巻末に収載方言索引つき。

◆1050円・四六判・125頁・無明舎出版・秋田・2010/5刊・ISBN978-4-89544-522-1

『里海的生活誌 -文化資源としての藻と松』 ●印南 敏秀著



里山と同様、人と海とが会い生活するところである里海も荒廃が進む。里海をにう二大要素に藻場と松がある。アマモやホンダワラなどの雑藻は「海の森」といわれ、魚介類を育む「ゆりかご」であり、水質浄化や防波の役割もある。藻そのものは畑の肥料となり、畑土の流亡・乾燥の防止にもなった。一方、海岸に多いクロマツは防風林、燃料、用材、肥料(落葉)として欠かせなかつ

た。また「日本人と松」ということで精神面でも大きな位置を占める。

本書では、愛知県の三河湾や瀬戸内等の遠浅な海岸地帯を中心に、豊かだったかつての里海での生活を語る。近年、里山の本は多いが、里海についての類書はなく本書は貴重である。

◆2940円・A5判・360頁・みずのわ出版・兵庫・2010/3刊・ISBN978-4-944173-77-8

『ひもじかった頃の記憶 -聞き書き四国』 ●渡辺 裕二著



貴重な証言集である。四国の農・山村を訪ね歩き、古老たちから聞き書した食生活での体験談をとりまとめたもの。このような体験を語れる人々はもうす少なくなった。語り手の多くは大正から昭和前期を生きてきた人たち。戦争の混乱や疲弊した経済社会のなかで、どのような食生活があったかを如実に語っている。庶民の隠れた裏面史である。語り手の方言交じりの体験談がそのまま表

記されており、より具体的に伝わってくる。また周辺の土俗的な行事や信仰などについて著者の注釈が理解を深めている。いま農・山村は荒廃と過疎によって、先祖の体験を語り伝えておくべき後継者さえ絶えようとしている。その意味でも本書公刊の意義は大きい。

◆1600円・四六判・213頁・リーブル出版・高知・2010/2刊・ISBN978-4-86338-018-9

『<さいたま>の秘密と魅力』 ●鶴崎 敏康著

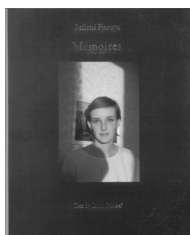


著者はもともと名古屋生まれだが、さいたま市議に5期連続当選した経歴を持ち、さいたまは今や終の棲家。この大著で地元住民が知らないことまでさいたま〈自慢〉をしてくれていて、県民が読めば郷土に誇りを持たずにはいられなくなる。例えば、大宮生まれで日本の職業漫画家第一号北澤楽天(1876~1955)、「今も昔もとてもエライ武蔵一宮」水川神社、埼玉の偉人で日本最初の

林学博士・本多静六と大宮公園等々。そもそもこのさいたま〈自慢〉の情熱は、80年代に「ダサイタマ」と東京人から揶揄されたことに端を発しているとのことなのだが、底流には、来るべき道州制に向けて、「さいたま新都心を州都に!」という構想があるようだ。

◆2625円・A5判・599頁・埼玉新聞社・埼玉・2010/4刊・ISBN978-4-87889-329-2

『Memoires. 1984-1987』 ●古屋 誠一著



オーストリアを活動拠点とする写真家古屋誠一が1985年に東ベルリンで自ら命を絶つまでの妻クリスティーナを撮影した写真集。「Memoires」と題して1989年に初めて発表して以来、20年以上を経て、本書が5冊目となる。『Memoires. 1984-1987』に、ピリオドが打たれているように、これが最後となる。ベルリンの壁崩壊前の東欧と妻のクリスティーナ。写

真の中に存在する二つの喪失は私小説的ではなく、あくまで冷徹な視線によって捉えられている。東ドイツの劇作家、故アイナー・シュレーフが古屋家族をテーマにつづったエッセイ「黒赤金」も掲載されている。

◆5040円・B5判・351頁・NOHARA・東京・2010/5刊・ISBN978-4-904257-07-4

売行良好書

期間：2010年5月16日～6月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1) 『いぬのおまわりさん』 1470円・不知火書房
- (2) 『なせば成る!』 840円・山形大学出版会
- (3) 『はじめての秋田弁』 1050円・無明舎出版
- (4) 『おうちで梅しごと』 500円・ベターホーム出版局
- (5) 『“数独の父” 鍛冶真起が教える難問数独』 798円・ニコリ
- (6) 『いそづの おはなし』 1680円・グランママ社
- (7) 『写真記録 筑豊・軍艦島』 2100円・弦書房
- (8) 『光の勢力は集合する』 1890円・シェア・ジャパン
- (9) 『いい会社をつくりましょう。』 1260円・文屋
- (10) 『意識の流れ 増補改訂版』 1000円・シルクふあみりい
- (11) 『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』 2100円・書籍情報社
- (12) 『これから和』 1680円・アートヴィレッジ
- (13) 『自閉症の子どもたちの生活を支える』 1575円・筒井書房



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 6月号』 420円・東京かわら版
- (2) 『円周率100万桁表』 330円・暗黒通信団
- (3) 『北海道いい旅研究室 12』 890円・海豹舎
- (4) 『英傑たちの肖像写真』 2520円・渡辺出版
- (5) 『南島原歴史遺産』 525円・長崎文献社
- (6) 『武蔵大石氏』 2940円・岩田書院
- (7) 『出版営業ハンドブック<基礎編>』 1260円・出版メディアパル
- (8) 『はじめての秋田弁』 1050円・無明舎出版
- (9) 『昭和プロレスマガジン 20』 1000円・昭和プロレス研究室
- (10) 『小弓公方足利義明』 1260円・崙書房

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『はじめての秋田弁』 1050円・無明舎出版
- (2) 『円周率1,000,000桁表』 330円・暗黒通信団
- (3) 『ami <アミ>』 1575円・ピリケン出版
- (4) 『ロシア語文法ハンドブック 改訂版』 1260円・アーバンプロ出版センター
- (5) 『整数論のための前菜』 * 315 * 円・暗黒通信団
- (6) 『豊臣期の宇喜多氏と宇喜多秀家』 2940円・岩田書院
- (7) 『パズル通信ニコリ Vol. 131』 882円・ニコリ
- (8) 『東京かわら版 No. 437』 420円・東京かわら版
- (9) 『沖縄1999-2010 戦世・普天間・辺野古』 840円・榕樹書林
- (10) 『小弓公方足利義明』 1260円・崙書房

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★

▼ 闘病記がTVドラマに

福岡の不知火書房刊『いぬのおまわりさん』— 24歳で逝ったまゆちゃんのプログより』(大石真由美著・1470円)がドラマ化され、7月4日(日)よる9時よりTBS系ネットで全国放映されることになりました。番組名は、「ヒューマンドラマ特別企画・愛と感動のドキュメント『いぬのおまわりさん』 ~ママは産むよ!ガンとの壮絶な闘い。夫婦の24日 涙と笑顔の記録~」で、主演は水川あさみさん、彼女を支える夫役には永井大さん。原作の著者・大石真由美さんは、2007年に長女を出産し、翌年第2子を妊娠したものの結婚式の1ヶ月前という時期に悪性リンパ腫と診断され入院。妊娠継続のまま治療を開始し、無事次女を出産した直後に24歳で永眠。闘病生活が続られたプログがご家族の手によって本にまとめられたのですが、当初自費出版するつもりで印刷会社に依頼したところ、内容に心打られた印刷会社の社長さんが「自費出版ではもったいない」と不知火書房まで原稿を持ち込んだのだそうです。タイトルの『いぬのおまわりさん』は長女が好きな童謡からとられたのだとのこと。初版は2009年夏に刊行され、その後大石さんのことが新聞等で大きく取り上げられたことで版を重ねてきました。最近インターネット上の図書館「闘病記ライブラリー」ができた、各地の図書館で闘病記文庫として独立したジャンルとして扱われる等、医学書にはない貴重な体験談として、闘病記が以前よりも探しやすい環境になっていますが、本書も同じ病気に悩む方々への得難い情報源として永く読み継がれることでしょう。


郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
- ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
- ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

